

昭和20年代における愛知県古墳時代遺跡

分布調査（尾張編）

伊 奈 森 太 郎 筆

松 村 冬 樹 編輯・補遺

近年の都市化の波に伴う自然開発は、貴重な文化遺産である多くの遺跡の破壊をもたらした。主に昭和30年代後半以降の、高度経済成長政策に伴う開発は、それまで比較的良好に保存されてきた都市近郊の遺跡を壊滅せしめた。現在では調査記録にたよるしか、その存在が明らかでない遺跡が大部分であり、その調査記録さえも満足な記述のあるものはまれである。このような現状では、研究者にとっては、遺跡についての一行一句の記述さえも重要な価値をもつ場合がある。

この稿は故伊奈森太郎氏により残された、昭和20年代の遺跡集成表を、そのような研究に多少なりとも役立たせようという意図をもって紹介するものである。伊奈氏は明治16年渥美郡田原町に生まれ、明治27年愛知県第一師範学校卒業後は、田原町中部尋常高等小学校に勤め、別の2・3校の校長、田原町通俗図書館長などを兼任された教育者である。昭和6年に退職した後、愛知県教育史の編纂に携わり、昭和11年からは愛知県教育委員会主事を勤め、社会教育課等で文化財保護などの仕事にあたってこられた。昭和24年に主事を辞された後、本大学の人類学研究所に嘱託として勤め、この遺跡集成表を作るなど、大いに活躍された。

伊奈氏により本大学に残されたこの遺跡集成表を紹介するにあたり、氏の稿をそのまま生かす方針で、原文を忠実に記述した。さらに研究者に便利なように、遺跡番号等の補足を若干つけ加えた。氏の遺跡集成表は、その大部分が古墳についての記述であり、地域別に細分されているが、今回は尾張部のみを取上げ、3つに大別して記述することとした。

本文の記述は次のように記することとする。

遺跡名称

所在地

①形状〈円、前方後円、及び全壊、半壊の別〉 ②大きさ〈墳丘の径、高、その他全長、面積など。単位はメートルであり、数字は算用数字にあらためた。〉

③遺物 ④調査者 ⑤所蔵者 ⑥文献 ⑦現状其他備考

これは氏の原文を忠実に記述するが、旧漢字は新漢字に直し、また上記①～⑦の各項は、原文では一覧表になっているものを、紙面の都合上、連続して列記した。

補足はすべて（ ）により示す。遺跡名称の後には、遺跡番号；台帳の遺跡名称を補足

した。これは、愛知県教育委員会『愛知県遺跡分布図』（1972）、及び文化財保護委員会『全国遺跡地図』愛知県（1965）をもとにした。現在の所在地名も地名変更の明らかなものだけは補記した。

最後には(補)として補足説明を、(参)として参考文献を加えた。この参考文献には記述内容が豊富で、近年に刊行されたものを中心に、入手しやすいものだけを取り上げた。これは後述する文献の略号により示す。記号の後の数字は該当ページを記す。

- A 『愛知県史蹟名勝天然記念物調査報告』5（1927）、6（1928）、7（1929）、8（1930）、9（1931）、10（1932）、11（1933）、13（1935）、14（1936）。

巻数は漢数字で示す。例（A五27）＝5巻27ページ。

- B 吉田富夫「名古屋考古ガイド」『名古屋市文化財叢書』7（1957）。
C 愛知県教育委員会『遺跡分布調査報告一尾張篇一』（1959）。
D 名古屋市文化財調査保存委員会『名古屋史蹟名勝紀要』（1959；'63改）。
E 愛知県文化財保存振興会『愛知の史跡と文化財』（1962）。
F 守山市教育委員会『守山の古墳』（1963）。
G 東海古文化研究所『名古屋市東部の前方後円墳』（1968）。
H 熱田神宮官庁『古代にみる熱田のすがた』（1970）。
I 愛知県教育委員会『愛知県遺跡分布図』（1972）。

以上のほかに、清水照子「文化財保護から見た愛知県尾張地区の古墳分布について」『南山大学文学部1973年度卒業論文』（1973）により、1972年当時の古墳の現状も補足する。なお、この伊奈氏の遺稿は残りの三河編を前後2回にわけて逐次発表する予定である。

名古屋市

神明社古墳 （3011；比来塚古墳）

南区戸部町名鉄桜駅西 （南区呼続町6 桜明神境内）

①円。 ⑦完備。

(補)桜神明社古墳ともいう。(参)B 8, D 6。

元八高古墳 （3000；八高古墳）

瑞穂区元第八高等学校敷地内 （瑞穂区瑞穂町 名市大敷地内）

①円。

(補)遺跡地図帳によれば前方後円墳と記されている。(参)B 8, D 10～。

おどり山古墳 一名まごく山 （3002）

瑞穂区村上町27番 （瑞穂区村上町1）

①円。 ②径40, 高 3.6。 ⑥愛調査第7。 ⑦周囲に埴が存在している。大体に於てよく原形を残している。明治維新までは墳丘の西方の一部に熱田社を奉祀してあったとのことである。

(参)A七44~, B 8, D12。

元熱田中学古墳 (3001; 高田古墳)

瑞穂区元熱田中学校内 (瑞穂区高田町2-78 県立大学敷地内)

①前方後円。 ⑦ややくずれてはいるが旧形を残す。

(参)B 8, D 5~。

瑞穂古墳群 (3006)

瑞穂区総合運動場事務所変電所一带 (瑞穂区豊岡通瑞穂公園及び豊岡小学校内)

①円。

(補)現在は公園と小学校敷地内に1基ずつ存るが、共に原形とは大きく異なる。また1基は野球場工事で亡失。(参)B 8, D12。

おつくり山古墳 一名西塚 (3009)

瑞穂区井戸田町78番 (瑞穂区井戸田町1-82)

①円。 ②径26.5, 高3。 ③釧1, 直刀3口, 劔3, 鉄鉾3, 鉄鏃70, 鈴釧1, 環鈴1, 漢式鏡2, 小玉数個。 ④小栗鉄次郎。 ⑤愛調査第7。 ⑦昭和3年10月土取り作業中遺物発見。西塚に対し東塚があったが殆んど同大同型であったという。大正15年破壊, 其の跡に借家が建てられている。昔は七塚と称し7個の塚があったが, 今は西数10間を隔てて麓に里俗ためまる様と称する自然石の立石を祀った小祠のある円墳が1つ残っている。

(参)A七33~, B 8, D 3, E51, H30。

下山古墳 (4107)

瑞穂区下山公園附近 (瑞穂区下山町1)

①円。

(補)昭和30年代後半には亡失していたと記憶する。(参)B 8。

井守塚古墳 (3010)

瑞穂区軍水町1丁目6番地

①全壊。 ③人骨3体, 壺1個, 金環1, 鉄鏃3, 刀子柄1。 ④中山英司。 ⑤南山大学人類学民族学研究所保管。 ⑦昭和27年10月全部破壊あとかたなし。

(参)B 8。

八幡山古墳 (2994; 史17)

昭和区北丸屋町 (昭和区山脇町1)

①円。 ⑦文部省指定, 埴輪, 周滄あり。

(参)A五1~, B 7, D11, E48。

茶白山古墳

昭和区吹上本町名古屋刑務所内 (千種区吹上本町 吹上公園内)

①前方後円, 全壊。

(参) B 7, D 8。

一本松古墳 (2993)

昭和区元名高工内 (昭和区御器所町 名工大内)

①円。

(参) B 7, D 3。

若宮古墳

昭和区広路町塩付通7 (昭和区広路通1)

①全壊。

(参) B 7, D 13～。

八事祝部散布地

昭和区八事名大グラウンド東 (昭和区山手通4??)

⑦祝部土器。

(補)遺跡地図から該当するものを求めれば、遺跡番号3148、遺跡名H80～84遺跡であろうが確実ではない。(参)D13。

高蔵古墳群 (2997; 1号墳, 4157; 2号墳)

熱田区高蔵町高蔵神社境内

①円。 ⑦7個散在。

(参) B 7, D 7, E54。

断夫山古墳 (2998)

熱田区熱田西町字根山4

①前方後円。 ②径129.98, 高14.57。 ④小栗鉄次郎。 ⑥愛調査第6。

⑦完備。埴あり。宮簀媛命の墓と称せられて居る。

(参) A 6 1～, B 7, D 8, E54。

白鳥古墳 (2999)

熱田区白鳥町174

①前方後円。

(参) B 7, D 6～, E54。

新尾頭遺物包含地

熱田区新尾頭町市電八熊線附近

⑦祝部土器, 土師器。

神宮前遺物包含地

熱田神宮南門前附近

⑦祝部土器, 土師器。

白山古墳 (2990; 白山社古墳)

中区東田町4ノ43 白山神社敷地

①前方後円。 ③埴輪円筒。

(参)B 7, D10。

那古野山古墳 (2989)

中区門前町4ノ7

①前方後円。 ②27間, 3間。 ③斎部。 ⑦円墳形を残す。元前方後円なりしとい
う。

(参)B 7, D 9。

門前町二子山古墳 (2987; 二子山古墳)

中区門前町7ノ6 西本願寺別院内

①前方後円。 ③漢式鏡, 埴輪, 甲冑, ⑤南山大学人類学研究所。 ⑦野球グラ
ンド築造のため昭和24年破壊せらる。

(参)B 7, D 4, E48, H29。

桜通遺物包含地

中区桜通1丁目

⑦祝部, 土師。

城山古墳群

千種区五百羅漢前城山大龍寺南の山中 (千種区城山町1)

①円。 ②径18.18, 高2.12, ⑦石棺あり。附近に同大のもの4個あり。

(参)B 6, D 7, E49~。

猫ヶ洞祝部窯址

千種区元猫ヶ洞池南西畔(千種区田代町鹿子殿)

(参)D10。

大曾根遺物包含地 (4179; 東大曾根1丁目遺跡)

東区大曾根町上1丁目830

③横瓮, 罎, 瓶, 高坏, 甕, ④小栗鉄次郎。 ⑥県調査報告第9。 ⑦昭和5年9
月瀬戸電森下駅より三階橋へ至る道路北へ3町, それより東西に通ずる道路を西へ入
1町の地点で下水工事を施す時, 道路上を開鑿中, 地下2尺から4尺の所に長さ数十
尺になって土器包含層発見出土。

(参)D 7。

西志賀公園遺物包含地 (4173; 志賀公園遺跡)

北区西志賀公園地附近 (北区平手町志賀公園内)

③弥生式土器, 斎瓮, 行基焼, 桧の薄板で作った曲物, 宝篋印塔, 五輪塔の一部など
が出土。 ④小栗鉄次郎。 ⑥県調査第9。 ⑦昭和5年6月西志賀公園新設の工事
中出土。

(参)A九, A十一, D 6, E46~。

綿神社遺物包含地 (4174; 綿神社遺跡)
西区西志賀町綿神社裏 (北区元志賀町2)

⑦祝部式土器。

(参)D14。

万町遺物包含地
中川区万町字郷

⑦祝部土器

(参)D11。

小本遺物包含地
中川区小本町神明神社附近

⑦祝部土器

(参)D16。

岩塚古墳 (2991; 1号墳, 4169; 2号墳, 4170; 3号墳)
中村区岩塚町七所神社境内

(参)B7, D3。

旧守山市

守山は東春日井郡守山町から守山市となり、現在は名古屋市守山区と地名が変遷している。したがって守山町とあるものは、名古屋市守山区と読み変えればよい。

七塚古墳 (2341; 長塚古墳)

守山町大字小幡字小林2990 山林

①前方後円。②径60, 高5.5, 周200。⑦二重埴を繞し、内埴の幅8米, 外埴の幅14米, 墳上には目通り径0.60乃至0.70の古松が数本ありて鬱蒼たる森林であったが終戦後盗伐せられて1本もない。附近に培塚と思われる小円墳が6ヶ所あったが終戦後耕地にせられ現在は其の痕跡を附近に黙に存するのみ。

(補)'72年当時、当古墳は喜多山公園区域にあり現存している(清水)。

(参)A十四22~, C23, D175, F21, G4~。

七塚東古墳

守山町大字小幡字小林 山林

①円, 半壊。②径30, 高3。⑦七塚の東方にあつて、墳上に松の木が1本残っている。道路によって中断せられ、其の形も不明である。附近に円筒埴輪の破片が散らばっている。

小幡白山社古墳 (2345; 小幡南島古墳)

守山町大字小幡字南島3248番地 平地

①前方後円。②径45, 高7, 周150。⑦大正年間までは幅8米余の埴に繞らされ

ていたが、今は埋立てられて、僅かに東側に一部残存す。且つ前部に社殿が建っており、目下後部に入口を加え社殿をここに遷さんとしている。

(補)一部破壊されてはいるが現存(清水)。(参)D213, F19~, G3。

瓢箪山古墳 (2346)

守山町大字守山町東山 778番ノ1 山林 守山中学校西

①前方後円。 ②高4, 周110。 ⑦幅約5米の環濠があったが、現在は殆んど埋め立てられ南方に若干痕跡が残っている。明治の末期までは培塚も2・3ヶ所残っていたが、現在は耕作地と化した。大正5・6年頃までは大樹が茂生していたが、所有者伊藤某、これを伐採して発掘しようとしたところ忽ち大病にかかり大に恐れをなし復旧せしめ一小祠を建てた。

(補)'72年当時、現存していた(清水)。当古墳の名称に、一部では、東山古墳の名をあてているが、近くに遺跡番号2349, 名称東山古墳, 所在地守山字東山なる古墳が存在する。また後述する東山古墳は、遺跡地図では川東山古墳と称される。誤解なきよう。(参)A七46~, C24, D179, F18, G8~。

浦市場古墳

守山町大字小幡字浦市場2595 原野

①円。 ②高1.7, 周10。 ⑦畑の中にあり瓢箪山古墳の培塚のように思われる。

守山白山神社古墳 (2348; 守山白山社古墳)

守山町大字守山字市場1013番 神社境内

①前方後円。 ②高6, 周200。 ③埴輪円筒を以って繞らされ土器の破片等も散在していたが、今は残存するものなし。 ⑦明治の末期まで幅8米余の環濠があったが、今は跡形も無く耕地や宅地になった。ここは古い樹木が繁茂している。環濠の周囲に天然記念物に指定せられたイヌナシやイツマデナシがある。

(補)'72年の調査によれば、後円部の北面が半壊とのことである(清水)。

(参)C24, D214, F18, G10~。

茶臼山古墳 (2515)

守山町大字小幡字北山 山林 七塚の北方約200米

①前方後円。 ②径60, 高15。 ⑦樹木が繁茂していたが終戦後殆んど伐採した。頂上に小祠がある。西側に土を掘り取って盛上げたと思われる所が濁池となっている。瓢形の丘陵を利用して作ったとすれば後丘にある円墳であるが、全部が古墳とすれば悠大な前方後円墳である。決定しがたい。

(補)'72年当時、後円部らしい北側が道路建設のため削り取られているとのことである(清水)。(参)A十四28~, C24, D175, F20~。

大塚古墳 (2343; 大森大塚古墳)

守山町大字大森字西新田2153番 原野 大森西新田共同墓地東

①円。 ②径25, 高 1.7。 ⑦耕地の為に次第に周囲を侵され、円墳が方墳か区別し
難い。明治30年頃発掘し上部の土をとりしたため樹木なく草生になっている。

(参)C 23。

小幡古墳 (2347)

守山町大字小幡字小林2999番 原野

②径16, 高 1.5。 ③石槨あり, 石棺 2 個, 銀環 1 個。 ⑥愛史第 2。 ⑦昭和 2 年
発掘したが, 自然石の大塊で組み立てられた石槨の中に組立式の石棺が 2 個並べられ
ていた。大正15年10月, 土地所有者守山町大字小幡大島藤次郎氏土採りの際偶然発見。
(補)'72年当時, 完全亡失し宅地及び道路になっている(清水)。

(参)A 六 9 ~, C 24, E 42, F 22。

西山古墳第 1 号

守山町大字牛牧字西山1117番ノ 1 山林

①円。

西山古墳第 2 号

守山町大字牛牧字西山1117番 原野

①円。

(補)地名によれば現在の守山市民病院の北あたりと考えられるが不明。

中山古墳

守山町大字牛牧字中山1632番ノ 1 山林

①円。

(補)正確な位置は不明であるが, 地名からは小幡都市公園内にあったと思われる。

東山古墳 (4320~4323; 川東山第 1 号墳~第 4 号墳)

守山町大字川字東山

①円。 ②径15, 高。 ⑦数個存在す。石棺出土。

(補)'72年当時, 完全亡失している(清水)。(参)D 213, F 27。

守山, 勝川, 志段味地区 以下の遺跡は名称だけ記述されているもので, 重
復するものは除き, 多少の補足を加えた。

東山古墳 (2349)

(名古屋市守山区守山字東山 荒地)

(①円, 滅失。 ③埴輪。)

南塚古墳

二子山古墳 (2336; 史29)

(春日井市味美字二子4742)

(参)A 十三35~, C 20。

- 春日山古墳 (2333)
(春日井市味美中新町)
(参)A十三40～。
- 白山古墳 (2610?)
(春日井市白山町?)
(補)所在地の記述がないので不明。(参)A十三38～, C20・22。
- 堀内古墳 (4027; 堀之内第1号, 4028; 堀之内第2号)
(春日井市堀之内町)
(補)1号は墳丘東部消失, 2号は一部残存。(参)C21～。
- 勝手塚古墳 (2364)
(名古屋市守山区上志段味字中屋敷)
(参)C25, F43, G18～。
- 白鳥古墳 (2366; 第1号, 4283～4286; 第2号～第5号)
(名古屋市守山区上志段味字白鳥)
(参)C25, F39。
- 羽根古墳 (2365)
(名古屋市守山区上志段味字羽根)
(参)C25, F43。
- 馬松塚古墳
- 東大久手古墳 (2360; 大久手第1号墳)
(名古屋市守山区上志段味字大久手)
(補)西南方向に遺跡番号2361, 遺跡名称大久手第2号墳, 別名西大久手古墳があり, 共に前方後円墳である。さらに西南方向には遺跡番号2362～3, 遺跡名称大久手第3号墳, 第4号墳があり共に円墳である。(参)F41, G16。
- 寺山古墳 (2357; 寺山第1号墳)
(名古屋市守山区上志段味字寺山)
(補)遺跡番号4282, 遺跡名称寺山第2号墳も存在し, そのいずれを指すのかは不明。
(参)C24, F40。
- 尾張戸神社古墳 (2510)
(名古屋市守山区上志段味字東谷)
- 中社古墳 (2511)
- 南社古墳 (2512)
(名古屋市守山区上志段味字東谷)
(参)F34。

西春日井郡・瀬戸市・小牧市・丹羽郡・知多郡

白山藪古墳 (2986)

西春日井郡楠村大字味鏡堂ノ前 (名古屋市北区味鏡堂の前)

①円。 ②径24, 高3.5。 ③漢式鏡3, 鉄製直刀3, 鉄製剣16, 鉄製鉞1, 鉄製斧2, 鉄鏃10, 管玉大5, 管玉小26, 勾玉2, 小玉632, 埴555。 ④中山英司。
⑤文部省。 ⑦昭和25年11月18日発見。粘土槨長現存3.85, 外0.30, 幅0.90, 高0.68。
(補)遺跡地区には前方後円墳と記されている。(参)D14, H26。

深川神社古墳 (2726)

瀬戸市深川神社境内(瀬戸市深川町)

①円。 ②径10, 高3。 ⑦横穴式石槨存在, 口を開く。
(参)C27。

万徳山古墳群

瀬戸市塩草古窯(瀬戸市太子町)

万徳寺第1号墳

①円。 ②径10, 高3。 ③壺, 平瓶等。 ⑤万徳寺。 ⑦石槨あり。蓋石は八分通り取り除かる。玄室の奥壁に近く棚の如く一段高く土をもりたる処あるを見る。

第2号墳

①円。 ②径5, 高2。 ⑦未発掘。

第3号墳

①円。 ②高2。 ③小形なる高坏。 ⑦小形な石槨あり横穴式羨道部破壊, 玄室長3, 巾1.80米。

第4号墳

①円。 ⑦未発掘。

第5号墳

①全壊。 ⑦大体外形は残っているが石材を取り去られている。

(補)遺跡番号2727~9, 遺跡名称万徳寺第1号墳~第3号墳が, 遺跡地区図には記載されているが, この5基のどれがどれに一致するのかわかりません。(参)C28。

日塚古墳 「どんど山」とも呼ぶ

小牧市大字三淵原新田字寺前2324番地ノ1

①円, 全壊。 ②径33, 高3。 ③祝部破片。 ⑦大正13年11月8日発掘, 其の後度々の破壊により現在は一部一部宅地となっている。

舟津惣掘古墳

小牧市大字舟津字惣掘 640番

①円, 全壊。 ②不明。 ⑦現在は其跡も全然分明せず。北里村地内に相当数の古墳

が現存しているから、其の一連のものであったかも知れない。

舟津一道古墳

小牧市大字舟津字一道956, 959番地 畑

①円, 全壊。 ②不明。 ③祝部土器。 ⑦壊滅して畑となる。

牛屋古墳

小牧市大字入鹿出新出 畑

①円, 全壊。 ②高2, 後不明。 ③祝部土器。 ⑦通常地蔵山と呼ばれていた。明治43年破壊して畑となる。石槨であった石や土は現在の同所林重留方に運び、築山や庭石とした。出土器の内1個の高坏は完全に残り、丹羽郡大口村豊田にあるという。

二子山古墳 (2367)

丹羽郡布袋町字曾本 (江南市布袋町曾本字二子塚)

①前方後円。 ②径30, 高5.3。 ③曲玉, 管玉, 刀剣類, 土器等の大部分は、内務省に納まり、東京博物館に陳列せられていたこともある。提瓶, 切子玉, 杯, 刀など布袋小学校に保管してあった由、町史布袋町大観に見えているが、現在所在不明。観音像1体。 ⑦西面する古墳であるが、後円の南方が3分の1程破壊されている。石室があった。安政年間に里人が発掘し、明治8年再び発掘せしが、たたりがあるとして其の後は手をつけない。石室の石1個が前方の西よりの処に置かれている。 ④鈴木新一, 伊藤正之助。 ⑤(観音像1体は) 大字曾本木曾寺内にあるも、布袋町大観によると供物とのこと。

(参) C12, E38。

新溝古墳 (2799)

丹羽郡岩倉町大字岩倉字宮西 (岩倉市大字岩倉字宮西)

①円。 ②径27, 高3。 ③不明。 ⑦昭和7年本殿改築の際巨石6個を掘出したが、そのうち2個はおそれ多しとして原位置にもどし、4個は本殿の両側に置かれている。巨石が出たことから石室のあったことは知られる。 ④鈴木新一, 伊藤正之助。

(参) C15。

蓮池古墳 (3641; 蓮池第4号墳)

丹羽郡楽田村蓮池 (犬山市楽田蓮池)

①円。 ②不明。 ③石棺, 祝部。 ④中山英司。 ⑤南山大学人類学研究所。 ⑦昭和26年1月29日発掘。石室のみ露出。附近に20余個の古墳群あり。

(参) C12。

円長寺古墳 (2398)

丹羽郡千秋村大字町屋円長寺境内 (一宮市千秋町町屋)

①前方後円。 ②径14, 高4.7。 ③横瓮2。 ④鈴木新一, 伊藤正之助。 ⑤円長寺。 ⑦明治33年ころ本堂修理の際塚東から横瓮1個が出土した外は何もわかってい

ない。前方後円かどうかははっきりしない。現在最高部の北側（裏手）が平らになっていて、そこは昔寺墓であったといわれている。このあたりの土がかなり沢山とられているようだが、これについて知っているものが1人もいないのではっきりしたことはわからない。

（参）C 16。

二子塚古墳 （2474；二子山古墳）

知多郡阿久比町大字宮津八反田

- ①前方後円。 ②径36.36，高3.61。 ③祝部土器5個，目下安村忍澄管理す。
④新美浜市。 ⑦嘗て石槨を破壊して石を他へ移せしことあり。古来毎晩竜人が灯火を献じたと浜市君の伝説を聞きたり。

（参）C 31。

大塚古墳

知多郡阿久比町大字阿久比字寺藏山

- ①円。 ②径20，高3。

（伊奈：元人類学研究所嘱託）

（松村：文化人類学研究科修士課程在学）

The Research of Ancient Tombs in the 1940's (Owari Area)

INA Moritaro
MATSUMURA Fuyuki

This report is an arrangement of the manuscripts which were written by Mr. Moritaro Ina himself on his researches of many relics. Mr. Ina held successively a principal of high schools in Aichi Prefecture also he played an active part as a member of the Aichi Educational Committee. After his resignation, he became a staff of the Nanzan Anthropological Institute, and he was engaged in the reseaches of the relics. His researches were carried out at the middle of the 1940's and mostly concerning to the ancient tombs. He himself recognized each ancient tomb by walking around and then he described them.

But it was a pity that his manuscripts weren't made public and they haven't been found out up to the present. Besides, before I publish this report arranged his manuscripts now, some of those ancient tombs have already perished at all and some of them have changed. Therefore, this report is valuable for the people who study the ancient tombs under the difficult conditions mentioned above, I believe.

According to the discription of the content, I've tried to quote his manuscripts as original as I can. Also I've made up the supplements on the present conditions of tombs, and recommended a few reference books to easy to get. Though the area of Mr. Ina's researches extended all over Aichi Prefecture and most manuscripts of that researches have remained, this time I published part of them as "Owari Area." The rest of them I'm going to publish as "Mikawa Area" next chance.